No.53（2015.7）

練馬区

地域と結ぶ

順天堂大学練馬病院ニュース

開院10周年を迎えて

院長　児島邦明

当院は平成27年7月1日をもってお陰さまで満10周年を迎えることができました。今後も当院におかかりの皆さまの期待と信頼に応えられるよう、大学病院として、最新・最善で、安心・安全な医療を提供してまいります。

順天堂大学練馬病院は大学医学部附属病院でありながら、地域医療支援病院に承認されている、全国でも数少ない病院でございます。多くの患者さんにおいでいただき、皆さまには外来スペース不足や待ち時間、また、緊急に入院の必要な患者さんのご要望に応えられていない点など、大変ご迷惑をおかけしております。

練馬区は71万人を超す多くの区民の方が住んでおられますが、一般・療養病床数は23区で最も少なく、人口10万人あたり281床（平成26年9月現在）で、23区平均の3分の1と、今なお病院・病床数が少ない現状になっています。

当院の外来スペースや400床のベッドを、一人でも多くの患者さんに有効にご利用いただけますよう、地域のクリニックの先生との連携に尚一層、努めてまいります。順天堂とかかりつけの先生の「二人主治医」、何か変わりのあるときには当院ですぐに診させていただけるよう、医療機能分担のシステムづくりを進めて参りたいと思います。何卒、皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

順天堂の学是「仁」、理念「不断前進」の精神のもと、今後も当院は、練馬区71万区民の方々をはじめ、周辺地域の皆さまに「安心」、「安全」の医療をお届けできるよう、誠心誠意、努めてまいります。

皆さまのご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

地域の皆さまの
心と身体のオアシスで
ありたいと願っています。
何なりと
ご相談ください。

熱中症とその予防

救急・集中治療科　先任准教授　杉田　学

先任准教授　杉田　学

暑い日が続き、今年も熱中症がマスコミを賑わしてきています。

今回は熱中症の予防のために役立つ情報をお届けします。

○どんな人が熱中症になりやすいのですか？

熱中症になりやすい環境として、高温多湿があります。もともと日本の夏は湿度が高いですから、猛暑では発症数が多くなります。高齢の方や小児・幼児は体温の調節に不利なことが多いため、発症しやすいことがわかっています。炎天下で働いたり、激しい運動をしたりする方は若年といえども注意してください。また抗てんかん薬や、睡眠薬などの向精神薬、アルコールを飲んでいる状態も熱中症を起こしやすいと言われています。

＊熱中症を予防するためには？

室内では扇風機、エアコンを使用して環境を整えることが必要です。外出する際には日傘や帽子、通気性のある衣服を身につけるなどの工夫も有効です。暑い日にはのどの渇きを感じなくても、こまめな水分補給を心がけてください。

○熱中症かなと思ったら…

まず屋外なら木陰や日陰のある風通しの良いところに移り、衣服を脱がせて薄着にします。水分の補給が必須で、スポーツドリンクの様な塩分を含んだものが有効ですが、スポーツドリンクは糖度が高いため、大量に飲ませると高血糖になる恐れもありますので注意してください。近年、経口補水液（ORS）という、点滴の組成に似たものが市販されており、熱中症の初期症状には有効と考えられます。当院の救急外来と化学療法室の間にある自動販売機にも入っていますので、ご覧ください。

デング熱について

感染対策室　飯塚　智彦

昨年世間を騒がせたデング熱ですが、もともとはアフリカ地域、東南アジア地域に多い疾患です。昨年は日本でも輸入症例だけでなく、国内発生例も報告され話題となりました。デング熱は今年も流行する可能性があります。私たちはデング熱について正しい知識を持ち対応する必要があります。

飯塚　智彦

1. デング熱の特徴（4類感染症）

- 病原体：フラビウイルス科フラビウイルス属のデングウイルス
- 感染経路：蚊による昆虫媒介感染
  （ヒト→ヒトへ直接感染することはありません）
- 必要な感染予防策：蚊に刺されない工夫、現在ワクチンはありません
- 治療法：対症療法のみ（治療薬はありません）

ヒトスジシマ蚊

潜伏期	2～15日（通常2～7日）感染してから症状が発症するまで
感染経路	蚊 ⇒ 人 ⇒ 蚊　　※人から人に直接感染はしない
症　状	2～15日（通常2～7日）の潜伏期間の後、およそ20%～50%の割合で発症し、38～40℃の突然の発熱、激しい頭痛、眼痛、関節などの激しい痛みが特徴といわれています。 通常、3～5日で解熱し、解熱とともに発疹が現れることがあります。発疹は治りかけたときに出現することが多くみられます。 ※（50%～80%の人はデング熱ウイルスをもった蚊に刺されても病気を発症しません）

2. 予防策と体調管理

① 蚊に刺されない工夫 ⇒ 蚊が多い場所に行かない。
長袖・長ズボンなど蚊に刺されにくい衣服を着用する。

② デング熱と診断された場合
⇒ 自宅で安静にし、蚊が多い場所に行かない。
（他人にうつさないため、蚊に刺されない工夫が大切です）

③ 休息と栄養 ⇒ 治療薬はないため栄養をとり体の自己免疫を高めウイルスが増殖しないよう体調管理をおこなうことが大事です。

メディカルサポートセンター開設について

メディカルサポートセンター　がん治療センター　花澤　喜三郎

２階総合案内奥にメディカルサポートセンターを開設しました。このセンターはがん相談室（相談支援センター）、看護師相談外来（診察室１）、薬剤師相談外来（診察室２）に分かれています。

＊**がん相談室**は東京都がん診療連携拠点病院業務の一環として様々ながんのご相談を臨床心理士がお受けします。

＊**看護師相談外来**はWOC外来（床ずれ・ろうこうケア、人工肛門・人工膀胱ケア、便・尿排泄ケア）を中心にご相談を専門看護師がお受けします。

＊**薬剤師相談外来**は抗がん剤治療に対する様々なご相談を専門薬剤師がお受けします。

主にがんでいろいろとお困りの方は一度お立ち寄りください。

がん相談室　がん治療センター　佐藤　有沙

がんと告知された時から患者さんは様々な不安や悩みを抱え、病気と向き合っていくこととなります。がん相談室ではこうした不安を抱えた患者さんと共に考え、歩んでいきます。「がんについて知りたい」「気持ちが晴れない」「治療費について知りたい」「療養生活で困っていることがある」等、その他がんに関するお悩みがありましたらぜひご相談ください。ご相談の内容に応じて他職種と協力し、ご相談をお受けしております。

一人で悩まず、ぜひ一緒に解決策を考えていきましょう！

看護師相談外来　看護部　岡田　綾

「住み慣れた地域やご家庭で、安心して、より良い療養生活が送れるようにお手伝いしたい！」そんな思いで専門・認定看護師外来がスタートしました。

医療が大きく変化し、いろいろな医療器具をつけたまま退院する患者さん、外来治療を受けながら仕事を続ける患者さんが多くなっています。

そこで、ご病気を持ちながらも地域社会で楽しく豊かに生活できるよう、専門的な知識や技術を持って患者さんのご相談をお受けしています。

４月から、まずストーマケアを必要とする患者さんのための予約外来枠を拡張しました。担当しているのは日本看護協会が認める皮膚・排せつケア認定看護師です。

今後はさらに活動を広げていけるよう努力してまいります。

薬剤師相談外来　薬剤科　金　素安

今年度より、抗がん剤治療を受けられる患者さんを対象に「薬剤師外来」を開設いたしました。近年、抗がん剤治療は外来通院で行うことが可能となり、多くの患者さんが自宅で生活しながら治療を受けられています。しかし抗がん剤治療は副作用を伴うことが多く、その種類も複雑であり、治療に際し、副作用の特徴と自宅での対処法をご理解いただくことが重要です。

薬剤師外来では、抗がん剤治療を始められる患者さんへの薬剤の説明や、すでに治療を行ってらっしゃる患者さんには医師の診察前に副作用のチェックを行い、他のスタッフとともに、治療を安全に、不安なく続けられるようにサポートしていきます。ご希望の患者さんは、主治医にご相談ください。

国際緊急援助隊・救助チームによるネパール救助に参加して

救急・集中治療科　先任准教授　杉田　学

先任准教授　杉田　学

2015 年4月 25 日にネパール連邦民主共和国で発生したマグニチュード 7.8 の大地震により、首都カトマンズを含む広い範囲で甚大な被害が生じました。ネパール政府からの要請に基づき、日本政府は 4 月 26 日に JICA 国際緊急援助隊救助チームを派遣しましたが、私は同チームのメディカルマネージャー（MM）として５月９日までの２週間現地で救援活動を行いました。

国際緊急援助隊救助チームは、USAR（Urban Search and Rescue）と呼ばれる都市型災害に対応する捜索救助のチームです。災害発生後、現地政府の要請に基づいて迅速に現地へ赴き、地震などで倒壊した建物等の下から負傷者を救出することを目的としています。チームは、外務省、警察庁、消防庁、海上保安庁、JICA に登録している医師と看護師からなる医療班、構造評価専門家、そして JICA の業務調整員の計 70 名で構成されます。世界の USAR チームはあらかじめ国連による能力格付けを受けて評価されることが推奨されており、日本のチームも最高ランクに認定されています。

4月 28 日に現地入りした後、地元の軍や警察を支援する形で救助活動を開始、世界遺産にも登録されているカトマンズ市内の旧王宮（ハヌマン・ドカ）近辺のクリシュナマンディール寺院や、近郊のサクー、バクタプールでの捜索救助活動を実施しました。当初１週間程度の活動を予定していましたが、現地の捜索救助ニーズを勘案し、さらに１週間活動を延長して救助チームとしては過去最長 14 日間の派遣となりました。

医師３名看護師２名からなる医療班の主な任務は、文化や医療水準の違う被災国へ派遣される隊員の健康管理と、要救助者への医療処置です。幸い隊員に大きな怪我や病気はありませんでしたが、捜索救助犬２頭が熱中症となり輸液処置を行いました。

現地の状況は大変過酷で、衛生や栄養の観点からも長期的な支援が必要だと感じました。国際社会の調整は、国連の支援により多方面から行われます。私は国連外部評価員として他国チームの評価・認定に関わっていますが、築いた人脈は被災国での円滑な調整活動に生きます。今回の派遣ではメディカルマネージャーとして、医療班のリーダーであるだけでなく指揮本部の一員として戦略を練り、国連や他国のチームと調整を行いました。医学部と国際教養学部のある本学の教員として、引き続き国際貢献と後進の育成に励みます。

最後になりましたが、留守中ご迷惑をおかけしました。留守を預かっていただけるという環境があって、被災地に行けるのです。常に皆さまに支えていただいていることを忘れずに、今後とも頑張っていこうと思います。よろしくお願いします。

杉田医師（中央）

当院は「地域医療支援病院」です。

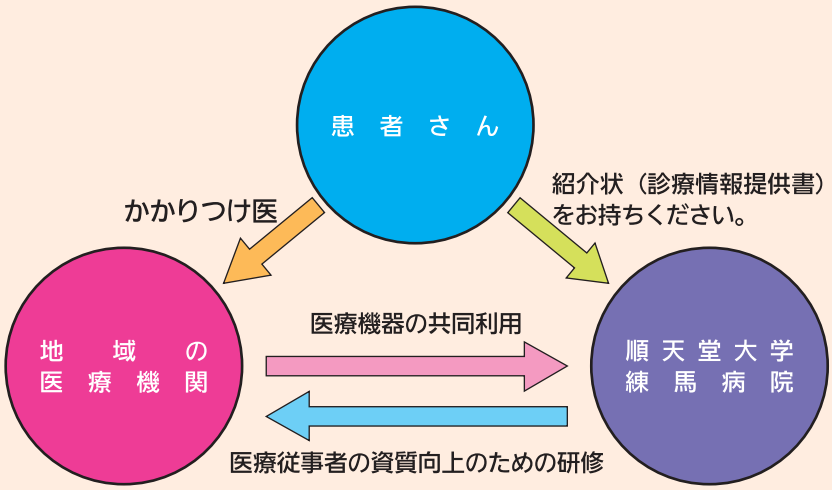
当院は平成 23 年 9 月 30 日付で、東京都より「地域医療支援病院」に承認されました。

地域医療支援病院とは？

地域医療支援病院とは、地域の病院、診療所などを後方支援するという形で医療機関の機能の役割分担と連携を目的に創設されました。

地域医療支援病院の役割

- 地域の医療機関からの紹介患者に対する医療の提供
- 医療機器の共同利用
- 救急医療の実施
- 地域医療機関の医療従事者の資質向上のための研修



かかりつけ医を持ちましょう！

当院は、皆さんのかかりつけの先生と連携した診療を行っています。日常の診療はかかりつけの先生が、専門的な検査や手術は当院が行うことにより、継ぎ目のない診療が可能になります。

当院での診療が一区切りついた時点で、かかりつけの先生や回復期治療を専門とする病院などに転院・ご紹介させていただきます。病状の安定している患者さんはかかりつけ医の先生からお薬を処方していただいてください。

順天堂大学医学部附属練馬病院

〒177-8521　東京都練馬区高野台3-1-10
電話 03-5923-3111
URL　http://www.juntendo-nerima.jp/
発行　地域医療連携室